

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502710		
法人名	有限会社 コミュニティさっぽろ		
事業所名	みんなの家		
所在地	札幌市白石区菊水9条3丁目4-13		
自己評価作成日	平成25年1月31日	評価結果市町村受理日	平成25年3月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0170502710-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 25年 2月 15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・職員一人一人が入居者様の気持ちを最優先に第一に考えて行動しています。
・終末期の介護について、ご家族とご本人の希望を聞き、ご本人の状況に合わせて、最後まで穏やかな生活を送って頂けるよう、職員が一丸となって対応しています。また、医療との連携では24時間対応で相談、受診、往診が出来るようになっていました。
・入居者の皆様がゆったりと楽しく過ごして頂けるように、日曜日には皆様でおやつを食べながら、カラオケを行っています。また、季節を感じて頂けるように外出行事等にも参加して頂いております。
・入居者皆様が満足して頂けるように職員の能力をのばすために、職員全員が研修に行き学ぶよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

有限会社 ふる

自己評価及び外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・スタッフルームに掲示。理念を作った職員が多数働いており、新入職員にも理念の説明をして理解を深めてもらい、受け継がれている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏場には公園に散歩に出掛け、近所の方に挨拶したり、話しかけたり、また、年1回、夏祭りを開催しており、行事を通して地域の方々とふれあえる機会があり、開かれた環境づくりをしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣の公園で事業所主催の夏祭りを毎年開催して地域の方々に向けての介護相談、介護技術の窓口になっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヵ月に1回、地域包括、町内会長、民生委員、近隣の企業、入居者様のご家族が参加され、状況報告、災害対策、学習会などをテーマに意見交換を行ってサービス向上に向けています。そこで話し合った内容は、その都度職員にも伝えていきます。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各書類の記入の際などに不明な点は市や区の担当者に相談したり、生活保護の関係で保護課の方々とも情報交換、相談を行っています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員に身体拘束・虐待防止を周知・徹底するために積極的に研修会や学習会に参加し、言葉での拘束を含めて、身体拘束のないケアについて理解し、実践しています。夜間は防犯の為に施錠していますが、日中は自由に出入り出来るようになっています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待防止についての研修に積極的に参加し、やむおえない場合には、それ以外の対応策を職員で話し合い代替えのケアを検討しています。また、ご家族様の希望もあり、転倒の危険がある方も見守りを強化して、ご本人の自由を尊重するケアを行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に成年後見制度を利用されている方が入居されていたこともありまして、制度に関する知識をもつためにも勉強会を開いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際は契約書を読み上げて疑問点などを確認して十分にご理解と同意を頂いた上で署名を頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の1階の玄関、各ユニットの玄関に意見箱を設置しています。また、ご家族様に送付している広報にもその都度呼びかけを行っています。入居者様は、要望、苦情を直接、職員に話してくれます。そのことはご家族様の面会時にお伝えしたりと情報を共有しています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回定期的に代表者・管理者・職員参加の会議を開いて、意見や提案等を出してもらっています。それ以外でも相談・要望等を聞き、迅速に改善出来る様に心掛けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各ユニットの会議に出席し、管理者及び職員の状況を把握しています。また、意見や要望も聞き入れて頂き、常に職員の立場になって考えてくれています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修では自由に参加させてでき、内部研修も定期的に行っており充実しています。研修終了後は月1回の会議にて勉強会を開き他の職員に内容を伝授し、意識統一を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や勉強会、管理者会議、連絡会に参加し情報交換・意見交換を行って、ケアの質の向上に活かしています。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、ご本人の希望や不安なことを傾聴し、安心して入居出来る様に支援しています。また、見学もして頂き、ホームの雰囲気を感じて頂いています。また、職員も入居者様の意志を最優先にするケアを心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学して頂いて、ホームの生活を見て頂き、ご家族の負担や不安、悩み事が取り除けるようにお話しや相談にのっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談の際にご本人の状況をご家族様や介護職員より、情報を得て、どのような希望があるかを確認してそれに対するケアの方向性を相談・準備しながら進めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にもありますように家庭的な場所ということ念頭において、家族のような関わりの中のひとつに介護があるという認識で接しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会時には、日常の生活の様子や身体の状況についてお話ししています。広報にも写真を貼り生活状況をお伝えし、行事にはご家族様へ参加の呼びかけもしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	郵便やはがきのやり取りの援助、親戚、知り合いからの贈り物に対するお礼の電話かけの援助をしています。また、過去、思い出を大切に、会話に盛り込んでお話ししています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様お一人お一人の性格等を把握し、自由に過ごす時間・場所を確保して食卓テーブルに集まりお茶を飲みながら職員も入り新聞読みや会話を楽しみ、入居者様同士が話せる時間を作るようにしています。また、孤立しない様、席の配置も相性を見ながら決めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後にもお見舞いに行ったり、ご家族様より手紙や連絡などがありましたらその都度対応するように心掛けております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望がある場合には傾聴し、ご家族様に相談したり会議で話し合い周知し、常に最前を検討しています。また、困難な場合も、これまでの生活歴やご家族様の意向などを踏まえて検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴については家族に聞く他、関わってきた方々からの情報、本人からの話や日々の様子を見て、把握する努力をして、その人らしい暮らしを支えるためにケアに活かそうと心掛けています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々心身の状況の確認、記録に残すようにしています。記録は1日に1枚使用、食事から夜間の状況まで把握出来るようになっています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画をたてる前に会議でモニタリングをして、本人がより良い生活が送れるように意見を出し合い改善しています。必要に応じてご家族様からも意見を出して頂き盛り込んでいます。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	引き継ぎや申し送り時に新しい情報を含めて伝達し、連絡ノートも併せて用い、職員会議でも対応をどうしていくのか、介護計画の見直しも踏まえて情報を共有するように取り組んでいます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限りご本人の思いに添える様に職員のみならず、代表にも相談して取り組むようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出行事、夏祭り、敬老会などに地域のボランティアに来て頂き、1月には芸能ボランティアの方々に獅子舞をお願いしています。また、2ヵ月に1回、民話のボランティア、週に1回、歌や散歩のお手伝いをして頂けるボランティアをお願いしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による往診の他、週1回の訪問看護師により日常健康管理も行われています。医師の往診で不定期な部分は通院支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護やデイサービスの看護職員に気になる所を相談したり、状況を確認して頂くことがあります。必要な時は往診先に連絡し、受診などの対応をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、職員が頻回に面会を行い、担当看護師と話をしています。また、往診病院と入院する病院が同じことも多いので、関係が作られています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合の対応に関する指針・終末期ケア対策方針」の説明、取り交わしを行い、ご家族の希望を重視し病院との連携もとれており、職員も重度化した場合や終末期の支援を経験しており、出来得る最大限の支援の方向性を示しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に応急手当の研修に参加し、会議で共有しています。また、病院側とも、急変時の対応について話し合いを行って申し送りや連絡ノートで職員に周知徹底を行っております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し夜間想定訓練も行っており、災害時に備えて近隣企業に協力を依頼し、119緊急通報システムが設置され、職員への緊急連絡網の整備も行っています。ただ、地震や水害時の訓練はしていない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の性格を理解し、プライバシーを尊重して言葉かけに注意を払っています。また、入居者同士で口論が見られたら、すぐに介入しお互いのプライドが傷つかないよう対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出時、入浴時、居室にいる際等に少しの時間でも傾聴し、要望等を聞き職員間でも情報交換をまめにしています。また、入浴時に服を選んで頂いたり飲み物の希望を聞いたり自分で決めて頂くよう働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の大きな流れはありますが、入居者様の希望を聞いて、疲れがある時には居室内で横になって休んで頂いたり、入浴を勧めたり、散歩に誘ったりと一人ひとりのペースを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に衣類を選んで頂いたり、髪型についても本人や家族の希望にそって行っています。また、アクセサリを身に付けたり、使い慣れた化粧品も使用しています。ご家族様が持ってきてくれる服での支援で行われています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事が楽しみになるよう共有ホールにメニュー板を出し、誕生日には好きな物を聞いて献立を組んでいます。食材切り、米研ぎ、盛り付けも一緒にを行い、出来る方には下膳をして頂いたりと個人の力に合わせて行って頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や水分量を記録し、献立を作る際にはたくさんの食材を使用するよう考えて、栄養のバランス、味付けにも気を配っています。また、一人ひとりに応じて、食べやすいように刻みやトロミなど、工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きをして頂き、声掛け、見守りを行っています。一人ひとりに合わせて、歯間ブラシや舌ブラシを使用し、義歯は夜間に洗浄剤につけて、殺菌・消毒を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを把握するために排泄確認表をつけて、排泄サイクルを確認し出来るだけ自力排泄して頂くように援助を行っています。また、座位の取れる間はトイレでして頂くため、2名介助での援助も行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳を飲んで頂いたり、食物繊維の食材を取り入れたメニューを摂取して頂くよう取り組んでいます。また、体操や散歩で体を動かし排泄を促し、それでも便秘になる方には下剤、坐薬でのコントロールをしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には身体状況に配慮しながら3日毎に入浴を勧めていますが、希望があれば、その都度対応し、状況に合わせた入浴支援を行っています。拒否のある方は、時間や職員を変えて声掛けを行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子を使用されている方は長時間の座位保持は疲れるため、午後から臥床して頂き、日中横になりたい方も自由に出来、体調や本人のペースに合わせて休んで頂いています。室温や湿度にも注意し、ゆっくり眠れるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のファイルに処方内容を保管し、職員が確認できる。薬の変更時には、毎日のミーティングの他に、ノートに記し、薬のケースにも変更内容のメモを貼り、情報を共有して、変更後の観察も行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合った内容を見極めて、茶碗洗いや食材切り、盛り付け、掃除等を職員と一緒にしています。また、気分転換も兼ねて1階でカラオケや風船パレー、リハビリを週1回行い、楽しみのある日を過ごして頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏場は本人の希望に合わせて散歩に出掛けたり、花見、紅葉狩りなど外出する機会を増やしています。また、外部からボランティアの方々をお願いしたりと地域社会の交流も兼ねて、力を入れています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が管理出来る場合はご家族様とも相談して本人が管理しており、外出時や受診時に好きな物を購入されています。その他の方はご家族様と相談して、預からせて頂き、外出時などにお金を渡して、その都度買物を楽しめるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話は設置可能であり、事業所の電話も使っています。通話が困難な方には共に付き添い援助しています。また、荷物や手紙が届いた際には、電話したり、と、希望にそって支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は開放的でホールの壁に広報を貼ったり、季節の飾り付け（正月、雛祭、クリスマス等）をして、雰囲気を感じられるように配慮しています。壁には入居者様がわかりやすいようにトイレなどの貼り紙を貼り、わかりやすいようになっています。温度や空気の入替え等に工夫して過ごしやすい工夫もしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中央に食卓テーブルがあり、その他にテレビ前、玄関横等、それぞれにゆったりとしたソファが離れた位置にあり、自由に過ごせるようになっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物（タンス、写真、置き物等）を持参して頂き、今までの生活を大切にしています。また、本人の写真や故郷のポスター、家族の手紙、写真等を飾り、過ごしやすい空間になるよう工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札を付けたり、トイレの電気が点・消灯は自動である旨の貼り紙を付けたりと工夫しています。また、カートを使用している方用にトイレのドアを開けるのが困難なため、トイレにカーテンをつけるなど、その都度、状況を見て工夫するようにしています。		